

2021 年度 慶應 SFC 学会研究助成金 (A) 成果報告書
Obstacles to ICN Congress Participation for Japanese Nursing Students

慶應義塾大学看護医療学部 4 年 佐村紫帆 71880840

【概要】

本調査は、日本の看護学生の ICN 大会参加を促進するために、日本全国の看護学生が持つ ICN 大会参加の障壁と、ICN 大会参加までの行動段階を明らかとすることを目的とした。アンケートは、インターネット調査により実施し、大学の看護系学部に通う全学年 632 名から回答を回収できた。それらを「発展系 AIDMA モデル」(行動変容モデル：①“ICN 大会を知らない”～⑥“ICN 大会に参加した”までの 6 段階の行動ステージ)を用いて分類し、ポアソン解析を用いて分析した。結果として、全体で最も大きかった障壁は「語学に自信がない」(72.5%)であり、行動段階①“ICN 大会を知らない”と②“ICN 大会を知っているが興味はない”でもこの回答が最も多かった。一方、行動ステージ③“ICN 大会に興味はあるが行きたいと思わない”～⑥“ICN 大会参加に向けて行動した”では、「参加方法の知識がない」ことが最も多い障壁であった。学年別の行動段階では、1 年生と 4 年生の間で統計的に有意な差が見られた。よって、行動段階によって障壁が異なり、高学年になるほど高い行動段階になる傾向があると言える。このことから、行動段階や学年に応じてアプローチを変えることで、将来的に日本の看護学生の ICN 大会参加が促進されると考えられる。本研究発表では、日本の看護学生の ICN 大会参加を促進するための重要な提案を行った。

【活動の目的】

本活動は、日本の看護学生が ICN 大会のようなグローバルな機会を活用することで、看護の授業や実習では得られない学びや経験、出会い、価値観などに触れる機会を増やすことを目指すものである。そのために、日本の看護学生がなぜ最も有名な国際看護学会である ICN 大会に参加しないのか、もしくは参加できないと思うのかについて明らかにすることを目的に調査・分析を行なった。本研究は、国際看護師協会 ICN が主催する国際会議 ICN Congress Nursing Around the World にて、看護学生としてポスター発表をした。

【研究の新規制・有用性】

本研究は、日本の看護学生が持つ ICN 大会参加に対する障壁を明らかとするものである。先行研究から、日本の多くの看護学生が「英語への自信のなさ」や「経済的な理由」により、ICN 大会への参加に障害を抱えていることが分かっている。本研究は、先行研究では明らかにならなかった新たな障壁を明らかにし、その結果を行動変容の「発展系 AIDMA」モデルを用いて分析する点に新規性がある。また本発表では、日本の看護学生の ICN 大会参加を促進するために、看護学生自身が現実な提案を考えるという点で独創性がある。さらに、本発表の提案は、日本の

看護学生がグローバルに活躍する一助となる点で有用性があると思う。

【今後の展望】

本研究では、看護学生が ICN 大会に参加できない障壁を明らかにすることができた。今後は、研究の結果を参考に、実際に看護学生時代に ICN 大会のような国際学会に参加（学会視聴・学会発表）したことがある方を対象に調査をすることで、学生のうちに参加することのメリットや経験について知る機会を作ることが展望である。

また、今回は私自身初めての国際学会での発表を経験することができた。この経験は、本調査でも明らかになった通り、看護学生の中でも珍しく非常に貴重な経験となった。そのため ICN 大会で研究発表をした経験を、今後私自身の研究を国際的に発表する活動に繋げたい。具体的には、現在卒業プロジェクトで取り組んでいる「患者満足度調査に関する研究」を国際学会で発表し、投稿論文を執筆することを考えている。また、看護医療学部を卒業し健康マネジメント研究科進学後は留学を計画しているため、本大会で国際的な視野を広げ今後に活かしたい。

【謝辞】

本研究は、看護学生が障壁を感じる国際学会での研究発表を、慶應 SFC 学会の資金援助を受けて実現することができました。このように、大学が国際学会への参加を支援する制度があることを多くの学生に知ってもらい、ぜひ活用してもらいたいと考えています。今回は、その前例を作ることができたため今後の看護学生の活動に期待していただけますと幸いです。今回、国際学会への参加費用を援助してくださってことに深くお礼を申し上げます。

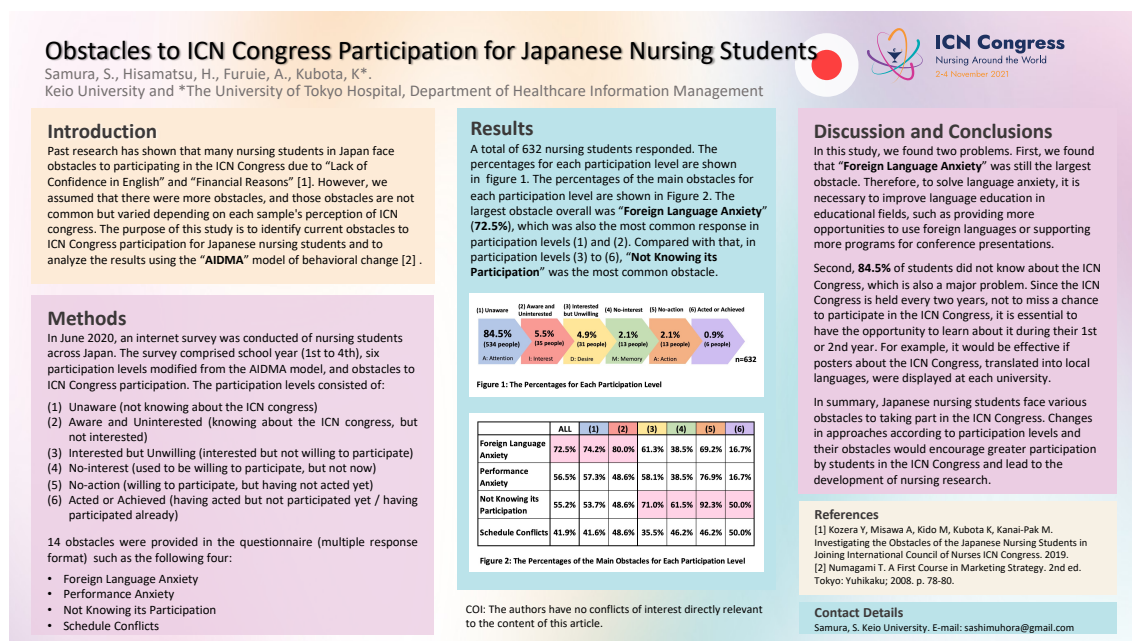


図 1 ポスター発表資料「Obstacles to ICN Congress participation for Japanese nursing students」